

5つの視点をあげ81.3闘争総決起しよう

日刊 動労千葉

80.12.20

No. 612

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）品三二七二〇七

今日の新しい岩・千葉転・勝浦を皮切りに各支部大会を成功させよう

全組合員の皆さん！

われわれが第四回定期大会で「81・3ジェット延長阻止」の方針を圧倒的に確立して以降、81年3月をめぐる情勢は、極めて急速に展開している。

布施組織部長に対する免職処分、年内強行発令とジェット延長提案策動の強まりの中で、われわれは、第四回大会で打ち出された「81・3闘争の5つの視点」を各支部定期大会をもって全組合員のものとしてうちかため、81・3闘争へ総決起しよう。

81・3闘争を闘う才一の視点は、三里塚闘争の勝利をかちとることである

鈴木反動内閣の軍事大国化・憲法改悪をはじめとする戦争政策と諸反動攻撃の強まりの中で、三里塚闘争こそは、一貫して国家権力と直接対峙する全人民的な闘いとして闘い抜かれている。この三里塚闘争にとって、81年は、二期工事強行着工攻撃との決戦の年である。

この81年三里塚闘争に勝ちぬく道は、われわれが、労農連帯の真価を発揮し、81・3ジェット燃料貨車輸送延長阻止の闘いへ総決起し、勝利することである。そして、この81・3闘争を突破口とする三里塚闘争の勝利をとおしてこそ、階級闘争の力関係を逆転させ、激動の80年代をかち抜く展望を切り拓くことができるのである。

才二の視点は、80年代労働運動の戦闘的再生をかちとる闘いである。

支配階級の反動攻撃が一層激化する中で、労働者階級の決起が必要であるにもかかわらず、既成労働運動は、資本、権力の側に迎合し、屈服しているのが現状である。

80年代労働運動の戦闘的再生の道は、三里塚闘争を基軸に労働運動の現状をなんとか打開せんと苦闘する多くの闘う労働者の決起をつくり出すことである。そして、この突破口としての最大の闘いが、81・3闘争である。

才三の視点は、動労「本部」革マル反動分子を一掃し、動労大改革を実現する闘いである。

われわれは、動労「本部」革マル反動分子の「三里塚反対同盟と一線を画する」なる反労働者的方針と対決し、組織的決別をもって闘い抜いている。

このようなわが動労千葉に対し、彼らは、暴力と金、権力と国鉄当局へのたれ込みなどありとあらゆる動労千葉破壊策動を一貫してくりかえして

きた。そして今日、彼らは国鉄35万人体制に屈服し、国鉄労働者の利益を売り渡し、その中で生きのびるために、権力・国鉄当局とは全く関わらず、唯一の運動として破産した水本謀略にかわって「小谷謀略」のみを持ち廻っているのである。われわれは、81・3闘争の全人民的爆発を待ちとり、全ての戦闘的階級的闘いに一貫して敵対しつづける動労「本部」革マル反動分子を徹底的に粉碎し、動労大改革をしなければならぬ。

今日、鈴木反動内閣は、軍事大国化・憲法改悪攻撃を一挙に強め、戦後労働運動の最後の解体・産業報国会化を完成させようとしている。

三里塚闘争こそは、今日の階級関係の中で最大の政治課題であり、反対同盟を先頭に全人民的な闘いとして闘い抜かれているのである。

われわれは、81・3闘争を80年代を決する政治闘争として闘い抜き、鈴木反動内閣の狙いを粉碎する突破口としなければならない。

才五の視点は、国鉄35万人体制粉碎へむけた突破口としての闘いである。

わが動労千葉が81・3闘争へ総決起しつつある中で、国労中央は国鉄当局による「二〇二億円のスト損賠」攻撃を「はねかえす闘い」として81・3闘争を位置付け、さらには総評、社会党もわが動労千葉の81・3ジェット闘争への支援決議をもって取組みを開始している。

われわれの81・3闘争への総決起こそは、国鉄労働運動を大きく揺り動かし、国鉄35万人体制粉碎へむけた全国鉄労働者の総決起をよびおこすその突破口としての闘いである。

全支部・全組合員の皆さん！

本日以降の各支部定期大会において、「81・3闘争の5つの視点」をわがものとして、あらゆる反動をうちやぶり総決起しよう。